

会報

日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 豊島区池袋3-7-1

☎3984-3853 ikejelc@a.toshima.ne.jp

<http://www.jelc-ikebukuro.org/>

2017-2号

発行日 2017年 6月25日



牧師 青田 勇

今回はローラ・インガルス・ワイルダー作『大草原の小さな家』の中にある「クリークを渡って」を紹介します。

この本の著者ローラ・インガルス・ワイルダーは、アメリカの南北戦争が終わった2年後の、1867年にアメリカのウィスコンシン州の小さな丸太小屋で生まれました。日本で言えば、ちょうど明治維新の頃で

す。クリスチャンであるお父さんと、お母さん、姉のメアリー、それに妹のキャリーの一家5人家族の物語です。

この物語は家族の旅がつづられています。最初に一家は、幌馬車で、約1000キロ南に下ったカンザス州のインディアン居住地に行きますが、そこでも1年後にインディアンに追われ、その地を離れます。さらに、そこからローラが小学校に入った頃でしょう、ミネソタ州のプラム・クリークの土手に作られた横穴の家に住みつくのです。でも、イナゴの大群に秋の収穫がやられたり、大吹雪にみまわれ、その地を去らざるを得なくなります。そして、サウス・ダコタ州のシルバー・レイクにある払い下げ農地、クレイムの開拓に携わるのです。開拓者として、サウス・ダコタ州の大草原にやっと落ち着くまでの波乱の家族の旅が語られています。

この本の中で、決定的なシーンが一つあります。それは家族が新しい新天地を求めて、馬車で大きな河であるクリークを渡る場所です。父親が馬車の手綱を引き、母親と子供は幌を固く縛った馬車の中で身を寄せ合って、不安の中でクリークを渡る場面があります。その場面がこのように描かれています。

「しばらく進むあいだは、馬車の後ろに、赤土の高いがけが、切り立っていました。けれど、ペットとパティが足を止めてクリークの水を飲むときには、がけは、丘と木々に水のゴーゴーと流れる音が、あたりにとどろいていました。岸に沿って茂っている木

が、かげ枝をたれ、水面に暗い影を作っていました。流れの中ほどは、すごい速さで、水しぶきが、銀色や青にきらきらと光っていました。」

、「母さんが、両手にしっかり手綱をにぎって、一人腰かけていました。メアリーは、また毛布にもぐりこみましたが、ローラは、前に乗り出しました。土手は、見えません。押し寄せてくる水のほかは、前には何にも見えません。水の中に、三つの頭がありました。ペットの頭とパティの頭と、父さんのぬれた小さな頭と。水の中で父さんのこぶしは、ペットのくつわを、しっかりとぎっていました。ローラには、水の音を通して、父さんの声が、かすかに聞こえました。それは、落ち着いて元気な声でしたが、何を言っているのか聞きとれません。父さんは、二頭の馬に、話しているのです。母さんの顔は、青ざめて、おびえていました。」

クリークを渡る家族は4人だけではありません。それに犬がいるのです。家族の一員である犬は、馬車に乗らずに自分の力で泳ぎ馬車を追ってくるのです。彼らが渡ろうとしている河は深いのです。馬の足もたたない深さです。父親は母親に手綱を渡し、自分は河に飛び込み、泳いでいる馬の鼻面をとって誘導するのです。母親はおびえて泣き叫ぶ子供をしかり、静かにさせ、馬を操るのです。

息がつまるほどの緊迫したシーンが伝わる場面です。そして、やっとのことで河を渡るのです。恐怖の中を家族が一緒に力を合わせて、河を渡りきった喜びは大きいのです。でも、その喜びの中で、彼らは自分たちの家族の一員である愛犬がいなくなっていることに気づくのです。喜びの中で彼らは悲しみの中に突き落とされるのです。その悲しみに打ちひしがれて、そこにただ佇んでいるわけにはいかないのです。明日に向けて前に、彼らは進まなければならないのです。悲しみの感傷に浸る時は許されていないのです。けれども、後で実は犬が追いかけて来て、一同は感激の対面をするのです。

この物語のポイントは、家族して一家をあげて危険な河を渡ることが人生の中ではあるということをお話しています。大きな困難に直面した時に、家族がばらばらになるのではなく、それぞれの力を合わせて生きていくすばらしさがここに語られています。共に力を合わせて、相応の協力が生まれていくなれば、それなりに危機は脱出できるのです。

私たちの人生には、必ず一度や二度、共に力を合わせて、人生の「大きな河を渡る」経験をしなければならないことがあります。それは子供が新しい学校に入ることもそうです。また、就職、結婚、それに家族のだれかが病気になったり、または夫が単身赴任をしたり、想定外の事故に会った時、相手が老年期を迎えた時、または地上の同伴者である者が召された時など、またそれ以外に、目に見える形をとらなくても大事な節目の時が色々あるのです。そのような時、大事なことは、同じ心の絆で結ばれている家族が、自分たちは今、人生の「河を渡るんだ」という自覚が求められるのです。そのようなちゃんとした自覚があれば、各自がそれなりに力を合わせる姿がはっきりしてくるし、危

険と思われた「河を渡る」ことをそれなりにできるし、そこからまた新しい関係が相互に生まれてくるのです。

古い教会の思い出

原 怜子

私が教会に足を向けたのは1948年の春頃だったと思います。教会は宣教師館のような建物で、牧師は溝口先生でした。小柄なお爺様という感じを受けましたが、お説教は大きなお声でわかり易く心に沁みるお話でした。私の質問に対してもとても優しく、にこやかにお答えくださいました。私の家庭はクリスチャンホームではありませんでしたが、戦前祖父がフレンド女学校で教鞭を取っており、学校の真前が自宅で、日曜学校（今の教会学校）に開放していたそうで、家族中讃美歌を歌っており、子供の頃から耳慣れていましたので、全く違和感がなく、私が教会へ通いだすと、祖母は古い「汽笛一声新橋を、早や我が汽車は離れたり」のメロディーで、「マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ、使徒・ローマ・コリント書」と、こう歌うと聖書の順を覚え易いよと教えてくれました。後に、この話を立山先生にお話した時、「僕もそうやって覚えました」と、仰られたのには、驚きました。慶応生まれの祖母と、若い立山先生との間に、時代の変化のないのに驚きました。

時折隣の建物からも讃美歌が聞こえて来て、おかしいと思っておりましたが、ルーテル池袋教会と日本基督教団とに分かれたようです。私は神様が導いて下さったものと思い、ルーテル池袋教会でXmasに洗礼を受けました。授洗者は8名程でしたが最近まで残っていたのは故森浩一兄と私の二人です。青年会で毎年Xmasの朝4時に起きて、各教会員の家の前で讃美歌を歌うのが習わしでした。毎年のことなので教会員の奥様が暖かい紅茶を入れて下さり、その気配りに感謝いたしました。

池袋教会にはパーボ・サボライネン先生、マルタ・ミエロ先生がいらっしゃり、ミエロ先生は編物を教えて下さりました。江崎ゑみさんもご一緒だったと思います。1951年に新会堂が出来上がり、黒い大きな十字架、広い祭壇、広い教会員の座席がありました。その年の11月に溝口先生は召天され、父を失ったように淋しかったです。

翌年、牛丸省吾朗先生のご一家が赴任されました。

牧師先生・宣教師の思い出

井澤和子

私は、昭和4年3月23日生まれで(1929年)、幼児洗礼は、池袋教会で、その年12月のクリスマスに、牛丸捻五郎牧師(8代牛丸省吾郎師のお父様)からうけました。捻五郎牧師の奥様は、日本女子大卒業でとても人柄もよく、賢夫人でした。母(井上むつゑ)もとても尊敬していて、大変仲良くしていました。8代牛丸牧師、その姉妹達とは、幼なじみとして成長しました。

昭和19年(1944年)から昭和24年までは、父(井上三郎)の仕事で京都で生活しました。昭和20年(1945年)クリスマスに福音ルーテル京都教会で岸牧師から堅信礼を受けました。

昭和24年(1949年)12月に東京に戻ってきました。当時の池袋教会は7代溝口牧師で、父ととても仲良く、尾山台の自宅にステッキをついて、家庭訪問でよく来て、話していました。当時「かこちゃん」とよばれ、かわいがっていただきました。

私が神学校に勤めてからも、その後、引越した豊島園の自宅にも、溝口牧師、8代牛丸牧師にはよくいらしていただき、家族のようなおつきあいをしていました。

昭和27年(1952年)12月12日池袋教会で井澤實と結婚式を挙げました。結婚して東久留米に住んでからも、牛丸牧師に宣教師と一緒に家庭訪問に年2回、2人の子供達が小学校の低学年まで、きていただいていた。

パーボ・サボライネンさんは、私が勤めていた神学校に語学(ラテン語)を教えに来ていました。ラグナ・レマールさんは、背の低い女性で、8代牛丸牧師と一緒に、東久留米の自宅に宣教に来ていただきました。「そうですね」が口癖でした。年子で生まれた子供が小さく、教会になかなか行けないので、大変ありがたかったです。

ヒルダ・アハトネンさんは、息子夫婦(井澤誠人・由美子)の堅信礼と初孫の幼児洗礼のために、東久留米の自宅に何度も来ていただきました。昭和59年(1984年)クリスマスに、3人とも8代牛丸牧師から洗礼を受けました。

2番目の孫は、平成6年(1994年)クリスマスに10代立山牧師から幼児洗礼を受けました。

両親、自分達夫婦、子供達、孫達と親子4代にわたり、池袋教会、歴代牧師、宣教師また多くの信者の方にお世話になり、とても感謝しております。

溝田弾一牧師(1885-1951)紹介

佐賀市に生まれ、アメリカ・ルーテル教会の南部一致シノッドの宣教師シェーラー、ピーリーが1893年(明治26年)より、佐賀に伝道を始めて間もないころ、家族と共に礼拝に出席し、1895年4月に受洗。(LEAF)の宣教師E.ミンキネンの知遇を得て、ミッションの伝道の協力を求められ、伝道者となる決意をする。青山学院を中退し信濃地区に赴き、伝道に従事した。1907年9月に教職の按手を受けた。フィンランド系ルーテル教会の最初の日本人議長にも選ばれた。戦後の教会再建に尽くされた。

東京池袋教会での牧師歴は以下の通り。

- 1923年 2月 札幌教会から東京池袋教会に赴任。
- 1929年 3月 東京池袋教会を辞任し、上諏訪に赴任。
- 1941年 9月 札幌教会から再び、東京池袋教会に赴任。
- 1951年11月 召天。

ルターに帰れ

林 悦子

宣教師さんについて書いて、と言われましたので、覚えていることを書くことにしました。私は昭和23年(1948年)イースターに洗礼を受けました。

そのあと、日付は覚えていませんが、フィンランドより宣教師のパーボ・サボライネン先生がお見えになり教会で「ルターに帰れ」とお話になりました。そして「私はこの後、札幌教会に行きます」とお話しになり説教壇を降りられました。フィンランド系の教会を廻って説いて歩かれたのだと思います。上諏訪教会を始め他の教会は牧師に従ってルーテルに戻りました。池袋教会だけが分裂してしまいました。それは、ずっとあとで知ったのですが、牧師先生にルーテルに戻りたいと言う事は、言わないで下さいと、先生の口をふさいだ人がいたのです。先生は何も言えずに、総会で決めるということになってしまったのです。総会で教団に残ることに決定した時、溝口先生は、それでも私はルーテルにと、退室されました。溝口先生に従った人は十三人と聞いています。

その翌週から、宣教師館で礼拝することになり、ミエロ先生がオルガンを弾いて下さいました。毎日曜日

「たのみとせる、神は、わがやぐら、わがつよき盾、苦しめるとき、近き助けぞ、

おのが力 おのが知恵を、たのみとせる、ヨミノオサも」と唄いました。

*パーボ・サボライネン牧師はヴィフトリ・サボライネン牧師(1882-1963年没)の御子息。フィンランド・ルーテル福音協会日本宣教師名簿1900-1999年

若者の広場

8年間教会に通って

西澤有祐

ぼくは初めてこの「ルーテル教会学校」に来たのは2009年の年長の頃だったと思います。二人の姉と毎週のように来ていました。小学4年くらいになった時に弟を連れてきました。ですが弟がなかなか、落ちつかず、つかれましたが、先生方が、静かにしてくれましたので、少し楽でした。

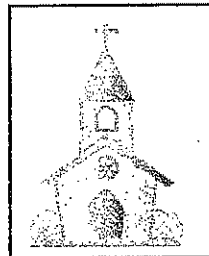
中学になり、来れる回数も少し、少なくなってしまうしました。ですが、来れる時には来ていました。これからも来れる時は来て、もう少し大きくなったら、大人の礼拝にも出てみたいです。（中学2年生）

教会と私

寺島理恵

私がルーテル池袋教会に通わせていただくようになってから、約二年、堅信礼を受けさせていただいてから、一年と少しが経ちます。私は幼児洗礼を受け、また、小学生の頃は、日曜学校に通っていた時期もありましたが、大人になってからは、教会や神様とは離れた生活をしていました。ですが二年前、池袋教会にお世話になっていた母の影響もあり、もう一度神様の元に導かれ、礼拝に出席するようになりました。それからは、青田先生をはじめ、教会に集う方々の優しさや交わりの楽しさに助けられて、神様の大きな愛を感じつつ、毎日を過ごすことができるようになりました。

私の好きな聖書の箇所は、詩編第三十七編五節の「あなたの道を主に委ねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げて下さる。」です。これからも、この言葉のとおり、主に信頼して、命を与えられ、生かされていることに感謝をしながら、一歩ずつ歩んでいけたら、と考えています。教会に通えることは大きな恵みです。この恵みを大切にしたいと思います。



近況のご報告

齋藤 俊

社会人となり早くも7年経ちました。石川県、奈良県、静岡県と様々なところで勤務してきました。教会の礼拝には思うように出席ができておりませんが、会報という形で近況のご報告をさせていただきます。

現在は静岡県の沼津支店に勤務し、営業を担当しています。1年目から3年目までの若手社員の教育係もしています。若手社員の教育をしていくことは、どこかしらで、自分の時間を削らなければいけないこととなります。しかし、若手社員教育を任せていただいている環境を大切に、周りからの期待にも応えていけるよう努力をしていきたいと思えます。

営業をしていると神様が助けてくれているのでは？と感じることが多くあります。思ったように事が進まず苦しい時もあり、そんな時は何をやってもうまくいきません。しかし努力をし続けているとお客様に新しいお客様を紹介して頂いたり、何かしらの解決策が生まれます。決して楽な時にそういった解決策は生まれるのではなく、厳しい時にこそ周りの方々の助けによる解決策が生まれてきます。自分だけでは解決できない問題を周りの方々の助けにより解決できた時、改めて神様は見守って下さっていると感じるがあります。

また、私生活では大きな変化がありました。今年の2月11日に結婚しました。妻は石川県出身で、同じ会社に勤めております。現在、妻は小田原支店に勤務しており、二人で小田原生活しております。妻も営業を行っているものの、家では家事などをすべて妻が積極的にしています。今までは仕事が終わると先輩と会食に行ったり、家でコンビニ弁当を食べていました。その結果、入社してから体重が激増してしまいましたが、今は妻が作る健康的な食事を食べています。もう独り身ではなく責任のある立場ですので、体調管理にも注意していきたいと思えます。そして、来年の2月10日に池袋教会で結婚式を行います。子供の頃から通っている池袋教会で結婚式をお願いできることに感謝しています。しかし、池袋教会で結婚式をどのように行えばいいか、まだ分かっていないことが多々あり、青田先生をはじめ、池袋教会の方々にご迷惑をおかけしてしまうこともあると思えますが、ご指導のほどよろしくお願ひします。

最後に、神様の教えを大切に、神様のお導きとお守りが私たち家族だけでなく、教会の皆様にもありますように祈りながら、今後も生活していきたいと思えます。今まで住んでいた場所と比較すると、小田原から池袋教会までは近くなりましたので、定期的

に礼拝には出席させていただきたいと考えております。今後ともよろしく申し上げます。
大変拙い文章ですが、わたしの近況報告とさせていただきます。

教会で皆様とお話できることを楽しみにしております。皆様も御自愛下さい。

教会にいたる道

松本誠義

こんにちは、あまり褒められた経歴ではありませんが、私が教会に来るまでのいきさつを書かせて下さい。

私は鹿児島県北の港町、阿久根市で生まれました。生まれてすぐに洗礼を受けました。両親は熱心なクリスチャンで、特に母は出張で忙しい父の分までいつも阿久根教会を支えていました。毎週日曜日になると、兄と弟も一緒に、家族全員で教会に来ていました。そんな中、私は早いうちから、痛ましい出来事のなくならない世の中と教会に強い疑問を感じていました。中学生のころ体調を崩したのをきっかけにして、教会に行くのをやめてしまいました。しばらく距離を置いて考えてみたいと、信仰不良少年になり、しばし身軽な気持ちでいました。

しかし、3年前の年末、母が天に召されました。ふと思い立って帰省して母と談笑した翌朝、前触れのない脳卒中でした。残された私や家族は、その事実をどうも受け入れることができませんでした。

母の事をきっかけに教会との接点をもどってしばらく、聖書や説教の言葉に目頭があつくなるやら、はっとするやら、以前とは見え方が違う事に気が付きました。母や犬や猫は神様のみもとにいて、永遠に生きている。短い人の生を粛々と生きてみようかと父と話しました。

洗礼を受けている、生後1か月の私と、私を抱きかかえる母の写真が残っています。そこに写る母の嬉しそうな表情を見て、母が愛を持って与えた信仰の道を、私は今ようやく歩き出しているのかなと、思いました。

就職で上京し、色んな教会をめぐると思っていましたが、池袋教会が、思いのほか居心地がよくて、居着いてしまいました。常に、み言葉を胸に生活を送るためには、まだまだ修行の足りない私ですが、皆様と共に信仰を深めていければ幸いです。

教会の主な集会・行事予定

- ◆ 6月25日(日) 礼拝、 城北地区聖壇交換(説教交換)
- ◆ 7月 2日(日) 礼拝後、 信徒会
- ◆ 7月 9日(日) 礼拝後 定例役員会
- ◆ 7月11日(火)午前11時 故今井兄納骨式、多磨霊園
- ◆ 7月12日(水)午後2時 聖書の学び
- ◆ 7月16日(日) 礼拝後 婦人会、特別講座
「ザビエル・キリシタン・隠れキリシタンの信仰と歴史」
第2回「キリシタン大名とキリシタン禁令」
- ◆ 7月18日(火)午前11時 婦人の聖書会
- ◆ 7月23日(日) 礼拝後、 バザー委員会
- ◆ 7月30日(日) 礼拝後 婦人感謝デー
- ◆ 8月 —— 一ヶ月は諸集会をお休みします——
- ◆ 9月10日(日) 礼拝後 定例役員会
- ◆ 9月13日(水)午後2時、 聖書の学び
- ◆ 9月17日(日) 礼拝、 敬老の日を覚えて、
礼拝後、 婦人会、特別講座
「ザビエル・キリシタン信仰・隠れキリシタンの信仰と歴史」
第3回「キリシタン復活と遠藤周作『沈黙』」
- ◆ 10月 8日(日) 礼拝後、 定例役員会
- ◆ 10月15日(日) 礼拝後、 教会バザー